



独立行政法人農畜産業振興機構 alicセミナー

EUにおける乳製品・食肉の生産動向 と今後の畜産関連政策の方向性

～7月に公表された畜産戦略を踏まえて～



日本貿易振興機構（ジェトロ）

ブリュッセル事務所 前田昌宏

2026年8月5日～9月4日

■ ご注意

当該講演内容、資料は情報提供を目的に作成したものです。主催機関および講師は資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力しておりますが、その正確性を保証するものではありません。本情報の採否はご自身でご判断ください。

また、万一不利益を被る事態が生じても主催機関及び講師は責任を負うことができませんのでご了承ください。

alicセミナー受講にあたっての注意事項

- ・ 本セミナーをお申込みいただいた方以外へのURLの転送はご遠慮ください。
 - ・ 録画、録音、資料印刷等の保存行為につきましてはご遠慮ください。
 - ・ YouTubeの動画視聴に関する技術的なご質問にはお答えできかねますので、ご了承ください。
 - ・ ご登録いただいたアドレスは、alicセミナーの開催以外の目的で利用いたしません。
 - ・ セミナー後は、アンケートにご協力をお願いします。
- 下記URLのアンケートフォームからご回答ください。

<https://www.alic.go.jp/consumer/foods/event.html>

目次

I. EUの生産見通し（欧州委員会生産見通しから）

（１）2026年の生乳・乳製品の生産見込み

（２）2026年の食肉の生産見込み

（３）2035年までの中期的見通し

II. 畜産関連政策の方向性

（１）畜産戦略

（２）農業者のサプライチェーンでの立場強化

（３）輸入品へのEU生産基準の適用強化の事例

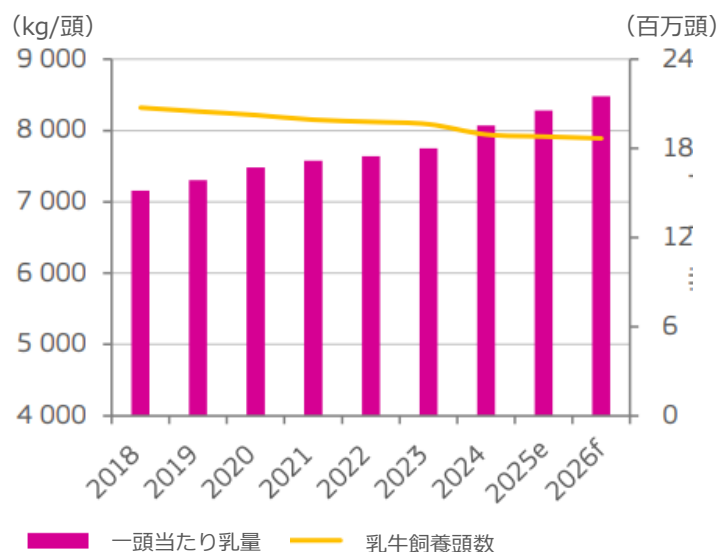
III. まとめと今後の見通し

※ 本セミナーは、2026年7月末時点での情報に基づき作成しています。

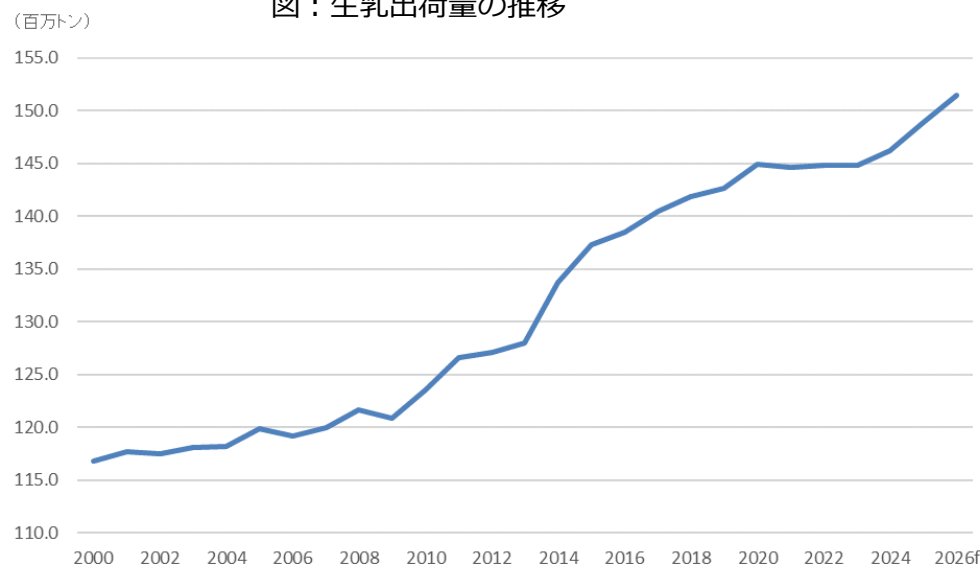
(1) | ① 生乳の2026年生産見込み

- 乳牛頭数は減少傾向で推移しているものの、一頭当たり乳量の増加により、生乳出荷量は増加傾向で推移。
- 2025年は複数の好条件に恵まれ、「予測外」の増産となり、生乳出荷量は前年比1.8%増。
- 2026年も1～4月まで前年を上回って推移していることから、生乳出荷量は同1.7%増の予測。

図：乳牛頭数と一頭当たり乳量の推移



図：生乳出荷量の推移



表：生乳関係指標の前年比増減

	2025年		2026年	
	(推定)	前年比増減	(予測)	前年比増減
生乳出荷量(百万トン)	148.9	1.8%	151.5	1.7%
経産牛飼養頭数(百万頭)	18.8	-0.7%	18.7	-0.7%
一頭当たり乳量(kg/頭)	8,279.6	2.6%	8,479.0	2.4%

(出所) いずれも欧州委員会

2025年増産の要因

- ・ 西欧では熱ストレスや干ばつが緩和され、恵まれた気象条件
- ・ 良好な飼料品質
- ・ 家畜疾病（特にブルータング）の影響の低減
- ・ 濃厚飼料価格の低下、乳価の上昇、乳牛や子牛の販売価格高
- ・ 育種技術による一頭当たり乳量の増加
- ・ 高収益を背景に、自動搾乳システムへの投資が進んだこと

(1) | ② 乳製品の2026年生産見込み

- 生乳出荷量の増加分は、需要が堅調なチーズ、ホエイ、バターおよび脱脂粉乳に仕向けられる。
- 2026年のチーズの生産量は前年から1.8%増加するものの、域内消費が堅調であることから、輸出量は前年比0.5%増とわずかな伸びにとどまる。一方、ホエイ輸出量は、高タンパク質製品への世界的な需要の高まりから同1.7%増の予測。
- 2026年のバター生産量は前年比5.0%増、輸出量もEU産バターの価格競争力の回復を受け、同5.0%増といずれも増加の予測。

表：乳製品生産量と輸出量の推移

(単位:千トン)

		2024	2025e		2026f	
				前年比増減		前年比増減
生鮮乳製品	生産量	36,535	36,416	-0.3%	36,200	-0.6%
	輸出量	1,572	1,684	7.2%	1,718	2.0%
チーズ	生産量	11,194	11,382	1.7%	11,583	1.8%
	輸出量	1,386	1,422	2.6%	1,429	0.5%
バター	生産量	2,330	2,475	6.2%	2,598	5.0%
	輸出量	266	268	0.7%	282	5.0%
脱脂粉乳	生産量	1,474	1,548	5.0%	1,656	6.9%
	輸出量	716	797	11.3%	837	5.0%
全粉乳	生産量	519	475	-8.6%	460	-3.1%
	輸出量	209	178	-14.8%	169	-5.0%
ホエイ	生産量	2,086	2,100	0.7%	2,128	1.4%
	輸出量	742	755	1.8%	768	1.7%

(出所) 欧州委員会

写真：欧州内スーパーでの高たんぱく乳製品販売の様子



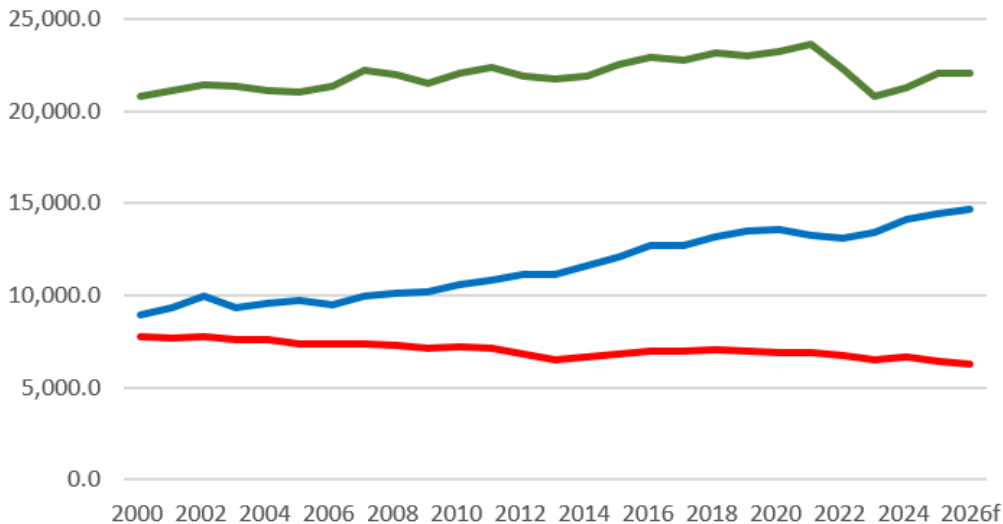
(2) 食肉の2026年生産見込み

- **2026年の牛肉生産量**は、環境規制の厳格化などを背景とした繁殖雌牛頭数の減少から、**前年比2.2%減の予測**。EU産牛肉が高価であるため、輸出量は同12.0%の予測。
- **2026年の豚肉生産量**は、25年12月時点における母豚頭数が前年比0.6%増であったこと等を踏まえ、**前年比0.3%増の予測**。一方、**同年の輸出量は**、中国からのアンチダンピング関税賦課やアジア市場におけるブラジル産豚肉との競合などを背景に**同0.5%減の予測**。
- **2026年の家さん肉生産量**は、価格面での優位性などを背景とした域内の堅調な需要から、**同1.4%増の予測**。

表：食肉生産量の推移

(千トン)

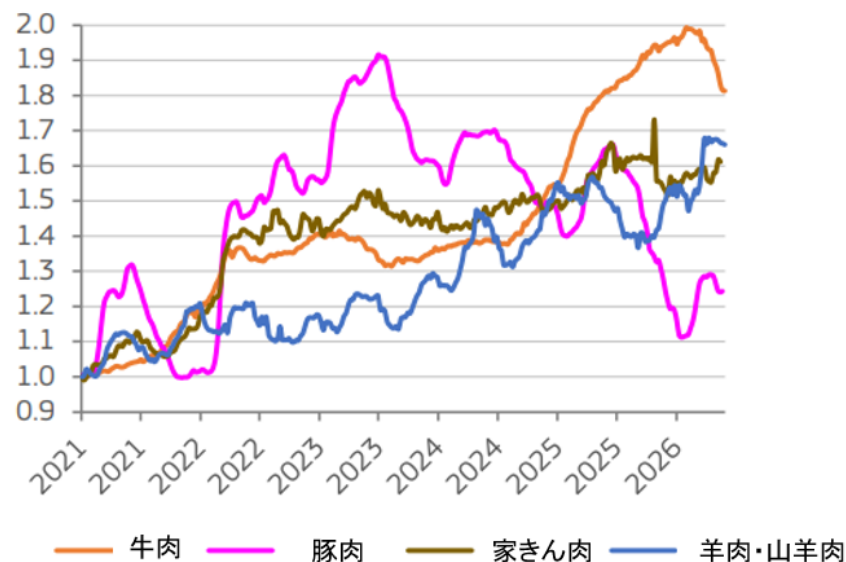
— 牛肉 — 豚肉 — 家さん肉



注：数値は枝肉重量ベース
(出所) いずれも欧州委員会

図 EUの食肉価格の推移

(2021年の数値を1として指数で表示)



(3) | 2035年までの中期的生産見通し

■ 2035年の生乳生産見通し

一頭当たり乳量が増加するものの、乳牛頭数の減少傾向が継続し、増産余地は限定的（毎年0.1%の増産）。

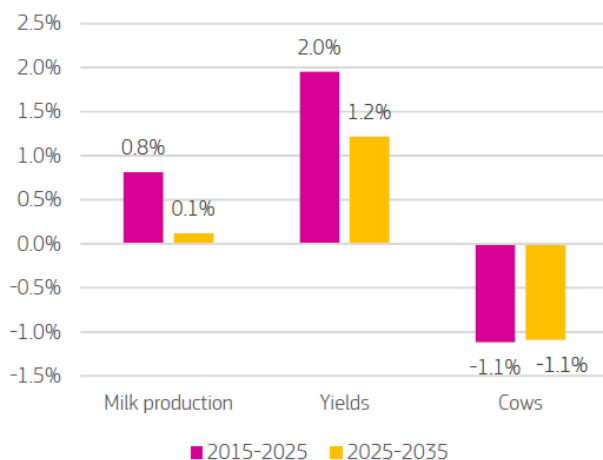
■ 2035年の牛肉生産見通し

環境規制や農業者の高齢化などを背景とした飼養頭数の減少により、23～25年平均比で9.2%減の予測。

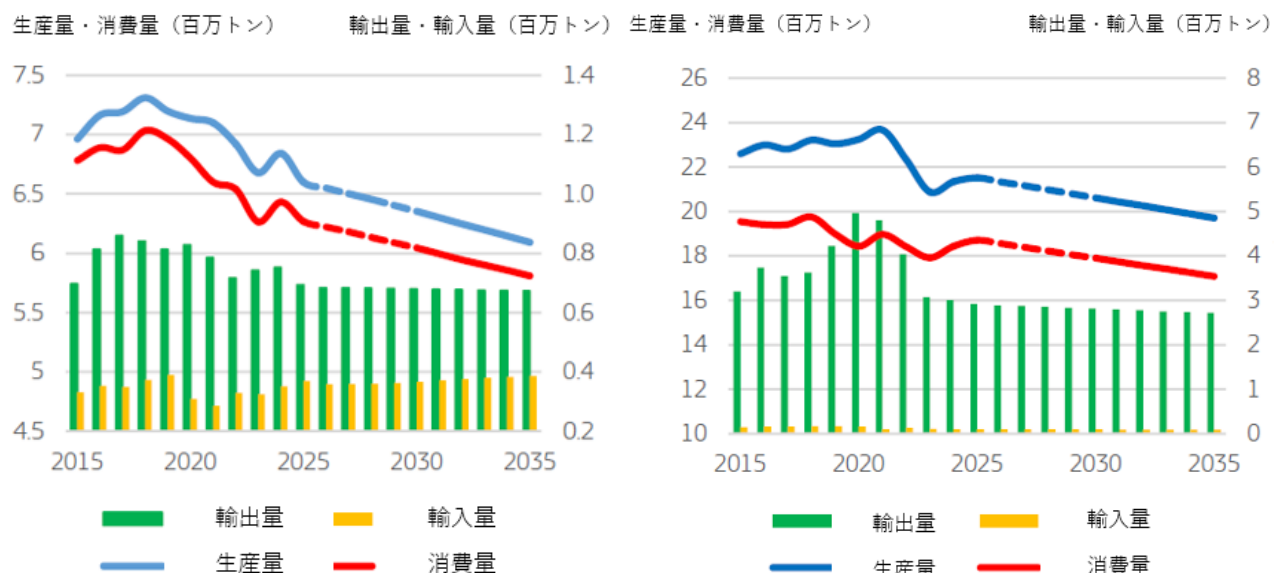
■ 2035年の豚肉生産見通し

アニマルウェルフェアや環境規制の強化より減産傾向で推移し、35年まで年平均0.75%減の予測。

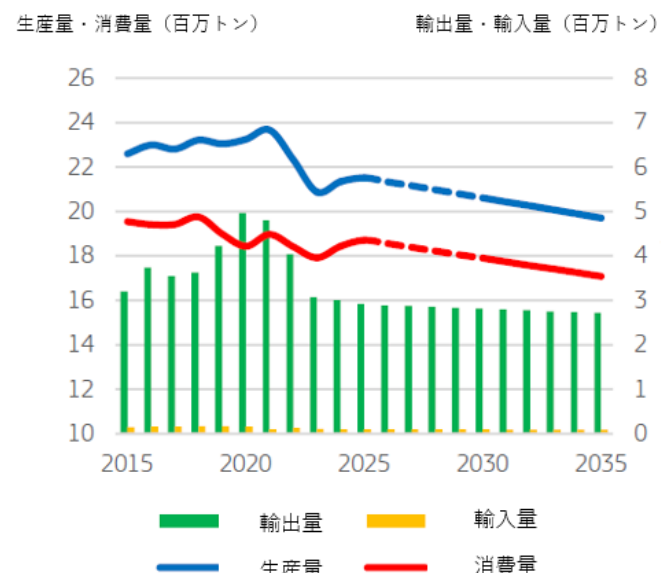
図：生乳生産関係指標の見通し



図：牛肉需給の見通し



図：豚肉需給の見通し



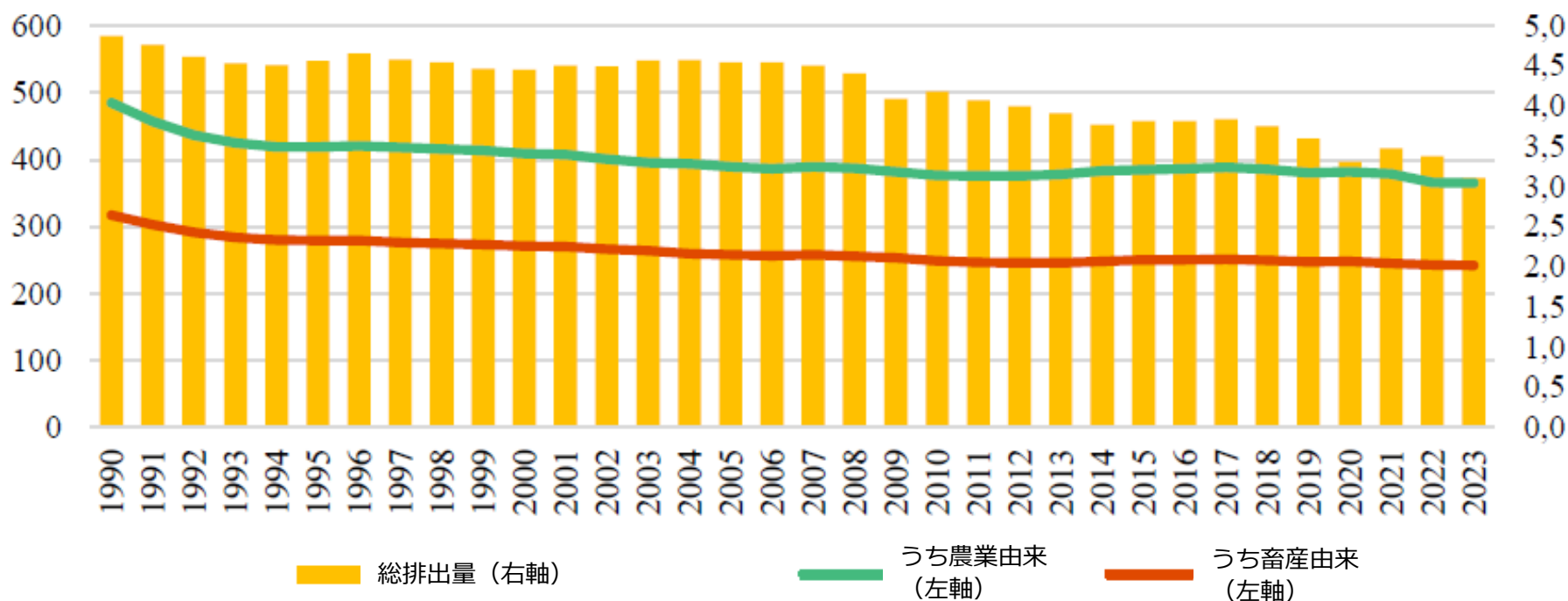
(3) 環境規制強化の背景

- EUにおいて、農業部門は温室効果ガス（GHG）総排出量の約13%を占め、そのうち2/3（66%）が畜産由来。その内訳は、腸内発酵によるメタン由来が49%、糞尿由来が17%。
- 2023年は2005年比でEUの農業由来のGHG排出量は6.8%減少。畜産由来では7.3%減少。
- 2019年にEUが掲げた「2050年までの気候中立（GHGの実質排出ゼロ）」という目標達成の観点では、農業部門のGHG排出削減のペースはが他産業と比較して進んでいない、との指摘がある。

図：GHG排出量の推移

（百万トン（CO2換算））

（十億トン（CO2換算））



目次

I. EUの生産見通し

(1) 2026年の生乳・乳製品の生産見込み

(2) 2026年の食肉の生産見込み

(3) 2035年までの中期的見通し

II. 畜産関連政策の方向性

(1) 畜産戦略

(2) 農業者のサプライチェーンでの立場強化

(3) 輸入品へのEU生産基準の適用強化の事例

III. まとめと今後の見通し

※ 本セミナーは、2026年7月末時点での情報に基づき作成しています。

(参考) EUの政策決定構造



欧州委員会

(European Commission)

- ・ フォン・デア・ライエン委員長 (ドイツ出身)
- ・ 26人の欧州委員
- ・ 任期5年 (2024年12月1日再任)
- ・ 法案を作成・提出する

法案を提出



欧州議会

(European Parliament)

- ・ メツォラ欧州議会議長 (マルタ出身)
- ・ 720人の欧州議員
- ・ 任期5年 (2024年7月16日再任)
- ・ 欧州市民の代表
- ・ 法案を審議・承認する



監督

指名

法案を審議
交渉を通じ
妥結

欧州理事会

(European Council)

- ・ コスタ欧州理事会常任議長 (ポルトガル出身)
2024年12月1日就任
- ・ 加盟27カ国首脳、欧州委員会委員長
- ・ 常任議長はEU大統領とも。任期2年半
- ・ EUの政策の方向性・優先事項を示す



法案を提出



EU理事会

(Council of the EU)

- ・ 加盟27カ国の担当大臣
- ・ 議長国は半年ごとに交代
(26年前半：キプロス、後半アイルランド【現在】
27年前半：リトアニア、後半ギリシャ)
- ・ 法案を審議・承認する

(1) 競争力強化、公平な収入確保への動き

- 2025年2月19日、欧州委員会は、**2040年までのEU農業及び食品政策の指針**となる「**農業と食のビジョン**」（**Vision for Agriculture and Food**）（副題：「将来世代のため、魅力的な農業・食料部門をともにつくる」）を公表。
- 環境重視から、生産者に寄り添う姿勢をより鮮明に打ち出した。



	優先分野	具体的取組
①	<u>公正な生活水準の確保、魅力的な産業構築</u>	・ 共通農業政策（CAP）を簡素化し、的を絞った支援を実施 ・ 不公正な取引慣行に関する指令（UTP）の見直し ・ 共通市場組織規則（CMO）の見直し ・ 「世代交代戦略」の策定
②	<u>競争力強化・強靱化</u>	・ 規制を簡素化して生産者の負担を軽減 ・ EU域内禁止農薬を用いて生産された農産品の輸入制限 ・ アニマルウェルフェア（AW）関連規制の見直し、輸入品への域内基準適用 ・ 畜産に関する長期的政策方針の策定（専門の作業部会の立ち上げ） ・ 「タンパク質戦略」の策定（飼料用大豆かすなどの自給率向上等）
③	環境政策との両立	・ 自主的なベンチマークシステム「農場持続可能性指針」の策定・導入 ・ 欧州食品安全機関（EFSA）における審査の適正化・迅速化 ・ 「回復力のある水戦略」の策定
④	農村地域の活性化	・ 消費者、農家、産業界、官界等の幅広い関係者を対象とした食料対話（Food Dialogue）を開催 ・ 「農村アクションプラン」の改訂



(1) 「畜産戦略」を公表

- 欧州委員会は2026年7月7日、EUの畜産部門に対する今後の政策の方向性を示す「**EUの畜産戦略 (EU strategy on livestock)**」を公表
- 加盟国、農業者、業界団体や市民団体等で構成された作業部会で1年以上の議論を重ねて策定

畜産戦略に対するメディア、団体等の反応

POLITICO

The EU's paradigm shift on COWS

Europe's plan to support livestock farmers recasts a climate problem as a strategic asset.

(仮訳)

EUの牛をめぐるパラダイムシフト

欧州の畜産農業者支援計画は、畜産を気候上の問題から、戦略的資産として再定義している。

農業関係団体などのプレスリリース

copa*cogeca

european farmers european agri-cooperatives

EU Livestock & Protein Strategies: Will the Commission deliver before time runs out?

The two Communications primarily mark an important shift in tone. After years in which livestock was too often portrayed as part of the problem, the Commission now recognises its contribution to food security, rural vitality, the circular economy, and the production of high-quality proteins and renewable energy. ↵



LIVESTOCK STRATEGY : BRING BACK ANIMALS IN EUROPE!

POSTED ON 07/07/2026 - POSTED BY FARM EUROPE



Eucolait welcomes EU Livestock Strategy

環境関係団体などのプレスリリース



Stuck in the past: EU Livestock Strategy presents no route out for a sector in crisis



Livestock Strategy offers band-aids, not solutions

GREENPEACE

EU livestock strategy ignores dangers from nitrates and methane



(1) 「畜産戦略」で示された転換点

- 「持続可能な畜産部門」は、EUの食料安全保障などにとって不可欠な産業と位置付け
- 飼養頭数の減少を課題として言及
- 生物由来メタンに関する認識についても言及

【畜産部門に対する認識】

- ・ 畜産部門は、年間4,000億ユーロの売上高を生み出し、400万の農場で約700万人が雇用
- ・ 持続可能な畜産は、食料安全保障、多様性に富む農村コミュニティを支える上で不可欠
- ・ 畜産の持つ、環境や気候への影響という課題と、食料供給、雇用、地域への貢献、生物多様性、文化的価値への貢献の両方を認識し、畜産に関する前向きかつバランスの取れたメッセージ

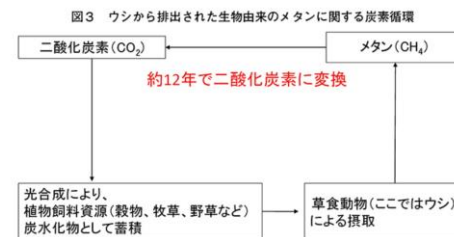
【飼養頭数減少に対する認識】

- ・ 農家戸数及び飼養頭数の減少を、農村コミュニティ維持の上での課題として認識
- ・ 特にウクライナ、ロシア、ベラルーシと国境を接する地域等における過疎化リスクに対応

【家畜由来メタンに関する認識】

- ・ 温室効果ガス（GHG）排出削減は引き続き課題と認識
- ・ 生物由来メタンに関する炭素循環を考慮する可能性について言及

→ この議論を踏まえた上で、
農場レベルでのGHG排出に関するモニタリングツールや
統一的な方法論を策定



(出所) ALIC畜産の情報2025年4月号
「ウシからの消化管内発酵由来のメタン排出について考える」



(1) 「畜産戦略」の主な内容

- 5つの優先事項を設定し、それぞれに対する今後の取り組み方針等を設定

	優先分野	今後取り組む内容
①	リスク管理・対策とレジリエンス（強靱性）の向上	・ リスク管理の向上→ 次期中期予算計画で専用の金融スキームを検討 ・ 家畜伝染病の予防と対応強→ 予防的ワクチンの活用など ・ 気候変動対策→ インフラ整備、育種などイノベーション推進、有機農業の推進
②	競争力の強化	・ 投資環境の整備、資金ギャップの解消→ 金融スキームの検討、許認可の迅速化 ・ 生産者の立場強化→ UTP s 規則、CMO規則の見直し（後述） ・ 循環型経済の推進→ 堆肥など副産物を有効活用、収入にも貢献 ・ EU生産基準の輸入品への適用の厳格化→ アニマルウェルフェア（AW）など ・ 農業食品分野に特化した外交→ EU製品のプロモーション、市場開拓
③	持続可能性の確保	・ GHGガス排出削減→ 家畜のGHG排出量算定法の確立、糞尿処理技術の改良など ・ AW→ ケージの段階的廃止などに向け、採卵鶏、肉用鶏、豚の関連規制を改正（採卵鶏・肉用鶏は2026年末までに、豚は2027年第2四半期までに提案予定） ・ 硝酸塩指令の簡素化の検討
④	農村地域への貢献	・ 過疎化リスクのある地域や条件不利地域にとって、畜産は重要な産業と位置付け→ 小規模、移動式の食肉処理場の設置の検討、デジタルインフラの整備、代行サービスへのアクセス など
⑤	EU産品の高品質性の認知度向上	・ 市場で環境への配慮やAW基準などの観点から適切に評価される仕組みの構築→ EU産と明確に識別できる表示制度（家きん肉から導入予定）、従来の枝肉等級という定量的基準に加え、官能特性や生産方法などの定性的要素を反映した食肉の品質表示制度の検討 ・ 地域産品のブランディングを支援→ 専用の販促枠の設定を検討 ・ 既存政策の強化→ 有機農業の推進、地理的表示（GI）の保護

(2) サプライチェーンにおける農業者の公平な収入の確保

- サプライチェーン上での農業者の立場を強化し、公平な収入が得られることを目的に、不公平な取引慣行に関する指令（UTP）と共通市場組織規則（CMO）を改正

○不公平な取引慣行に関する指令（Unfair Trading Practices）

概要：食品サプライチェーンでは、小規模事業者と大規模事業者間に力関係の不均衡があるため、
特定の不公平な取引慣行を禁止し、農業者や小規模事業者を保護。
（禁止行為例：支払遅延、短期間での注文取消、買い手からの一方的な契約変更、劣化や損失リスクの転嫁等）
改正内容：**複数の加盟国で事業を行う者に対する対策の強化**

○共通市場組織規則（Common Market Organisation）

概要：EU 競争法の農業分野のルールを定めるものであり、一連の市場関連制度について規定
改正内容：**書面契約の義務化**（現行：加盟国は書面契約を義務化できる）、
固定価格又は契約時に生産コストの変化を考慮する指標利用、一定期間を超える契約における改定条項の義務化
「食肉関連用語」の使用制限 → 以下の用語は植物由来製品や細胞性食品には使用不可（下表がその一覧）

用語	(参考)和訳	用語	(参考)和訳	用語	(参考)和訳
beef	牛肉	drumstick	ドラムスティック	liver	リバー
veal	仔牛肉	tenderloin	テンダーロイン	thigh	サイ(もも)
pork	豚肉	sirloin	サーロイン	brisket	ブリスケット
poultry	家きん肉	flank	フランク	ribeye	リブアイ
chicken	鶏肉	loin	ロイン	T-bone	Tボーン
turkey	七面鳥肉	steak	ステーキ	rump	ランプ
duck	鴨肉	ribs	リブ	bacon	ベーコン
goose	ガチョウ肉	shouder	ショルダー		
lamb	子羊肉	shank	シャンク(すね)		
mutton	成羊肉	chop	チョップ		
ovine	羊肉	wing	ウイング		
goat	山羊肉	breast	ブレスト(むね)		

- ・ 26年 6月に正式にEU理事会及び欧州議会から承認
- ・ 今後官報に掲載され、施行
- ・ 適用は、
書面契約の義務化
→ 施行から2年後、
食肉関連用語の使用制限
→ 施行から3年後

(3) 輸入品へのEU生産基準適用の厳格化（事例紹介）

- **EU農業の競争力強化のため、EU生産基準の輸入品への適用を厳格化する方針。**
- **EUは畜水産物の生産段階における抗菌剤の使用を制限。要件が遵守されているとEUが認めた国または地域は、動物種や動物性由来製品ごとに、「抗菌剤使用に関する第三国リスト」に掲載。**
- 26年6月4日、**同リストからブラジルを削除。**改正前のウシ、家きんなどに関する掲載がすべて削除（図）。
- **当該リストの適用は26年9月3日から**であり、非掲載の状態が継続した場合、同国で同日以降に証明書が発行される畜産物の**EU向け輸出は不可となる見込み。**
- EUの輸入量に占めるブラジルのシェアは、牛肉が約26%、家きん肉は約23%（2025年、表）。
- ブラジルから見ると、同年のEU向け輸出量が全体に占める割合は、牛肉が約4%、家きん肉が約2%。なお、EUとブラジルを含むメルコスール諸国との間では、5月1日から貿易協定の暫定適用が開始され、牛肉や家きん肉に対する関税割当を設定。

図：抗菌剤使用に関する第三国リストのブラジル該当部分の比較

【改正前】

		Animals and products of animal origin intended for human consumption (*)											
Country ISO Code	Third country (*) or regions thereof	Bovine	Ovine/ caprine	Porcine	Equine	Poultry	Aquaculture (*)	Milk	Eggs	Rabbit	Farmed game	Honey	Casings
	国名	ウシ	ヒツジ/ヤギ	ブタ	ウマ	家きん	水産養殖物	乳	卵	ウサギ	飼育狩猟鳥獣	ハチミツ	ケーシング
BD	Bangladesh						X						
BR	Brazil	X			X	X	X					X	X
BW	Botswana	X											

ブラジル

【改正後】

		Animals and products of animal origin intended for human consumption (*)											
Country ISO Code	Third country (*) or regions thereof	Bovine	Ovine/ caprine	Porcine	Equine	Poultry	Aquaculture (*)	Milk	Eggs	Rabbit	Farmed game	Honey	Casings
BD	Bangladesh						X						
BF	Burkina Faso											X	
BJ	Benin											X	
BN	Brunei						X ⁽¹⁾						
BW	Botswana	X											

ブラジルのリスト掲載なし

資料：実施規則 (EU) 2024/2598および実施規則 (EU) 2026/1189の一部を抜粋

表：EUのブラジルからの牛肉および家きん肉輸入量

単位(トン)

品目	2024	2025	2026(1～3月)
牛肉	273,406	324,294	79,129
うちブラジル	58,899	83,249	26,521
家きん肉	384,069	386,929	90,127
うちブラジル	72,101	88,422	36,083

資料：GTA

注：HSコードは、牛肉：0201および0202、家きん肉：0207

抗菌剤等使用に関する日本でのEU向け畜産食品における対応に関する詳細は
https://www.maff.go.jp/j/shokusan/export/eu_amr.html を参照

Ⅲ | まとめと今後の見通し

- 2024年12月に発足した欧州委員会の体制下では、競争力の強化などが最優先課題とされ、前体制で最優先とされた環境・持続可能性は、上記の課題と両立しながらの達成を目指すという姿勢に後退している。畜産部門においても、「畜産戦略」の公表により、同様の姿勢であることが裏付けられた。
(日本からの輸出という観点に関しては、EU域内基準の輸入品への適用厳格化などの保護主義的な動きもみられることに注意。)
- 実際に生産動向が転換するかは、畜産戦略で示された取り組み内容の実施に向けた今後の具体的な政策的支援の内容や予算に影響されるとみられる。
- 12月に公表予定の次回の中期見通しにおいて、畜産戦略による政策の転換が、見通しにどう反映されるか注目される。
- また、年内には採卵鶏・肉用鶏に関するアニマルウェルフェア改正案が公表予定となっている。

ご清聴ありがとうございました

日本貿易振興機構（ジェトロ）

ブリュッセル事務所

前田 昌宏

下記URLからアンケートにご協力をお願いします。

<https://www.alic.go.jp/consumer/foods/event.html>



Masahiro_Maeda@jetro.go.jp



Rue de la Loi 82, 1040 Brussels, Belgium

世界の
ビジネス関連情報
を毎日掲載！

閲覧無料

『ビジネス短信』
はこちら



<https://www.jetro.go.jp/biznews/>

海外の畜産関係の
情報を随時更新

ALIC海外情報



<https://lin.alic.go.jp/alic/week/week.htm>

■ ご注意

本日の講演内容、資料は情報提供を目的に作成したものです。主催機関および講師は資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力しておりますが、その正確性を保証するものではありません。本情報の採否はお客様のご判断で行ってください。また、万一不利益を被る事態が生じても主催機関及び講師は責任を負うことができませんのでご了承ください。

ホームページバナー広告募集します

- 掲載料:10,000円／月(縦60ピクセル、横150ピクセル)
- 申込み期間:随時
- 申込み方法:メールにて受付

申込み方法や期限などの詳細は機構
ホームページでご確認ください。



バナー広告掲載イメージ
トップページ右上部のバナー広告コーナーに掲載

気になる情報をメルマガでお届け！

総ページビュー数
830万件以上！
(2024年度実績)



広告募集ページ

総セッション数
460万件以上！
(2024年度実績)



メルマガ登録はこちら